Japan Geoscience Union Meeting 2010
(May 23-28 2010 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2009. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

OES005-11 会場: 302 時間: 5月23日15:50-16:10

火山の博物館「霧島山」 －霧島ジオパークへの取り組み－

The museum of volcanology "Action for Kirishima Geopark"

前田 終止[1*], 坂之上 浩幸[1], 新保 正輝[1], 柳田 謙一郎[1], 山口 剛[1]

Shuji Maeda[1*], Hiroyuki Sakanoue[1], Masateru Niibo[1], Kenichirou Yanagita[1], Tuyoshi Yamaguchi[1]

[1]霧島ジオパーク推進連絡協議会

[1]Kirishima Geopark Promotion Team

霧島山は九州南部にある火山群の総称で、宮崎県と鹿児島県にまたがる北西-南東方向に長い30km×20kmの範囲に20あまりの火山体と火口が分布している。有史以前から歴史時代を経て現在に至るまで噴火を繰り返している活火山で、最近では2008年8月に新燃岳で小規模な噴火が起こった。

霧島山の北側には約52万年前に形成された小林カルデラと約33万年前に形成された加久藤カルデラがある。これらのカルデラの南端にある霧島山の火山活動は、加久藤カルデラの形成を境に古期と新期に分けられ、現在地表で見られる火山のほとんどは新期の活動によって作られたものである。霧島火山では高千穂峰をはじめとする成層火山や火砕丘、韓国岳の爆裂火口などの山体崩壊やその流れ山など、さまざまなタイプの火山体や御池・大浪池などの火口湖が見られるとともに、多様な噴出物を見ることができる。まさに「火山の博物館」とも呼べる場所である。
また、霧島山の最高峰である韓国岳や高千穂峰の頂上からは、南に姶良カルデラを挟んで桜島、さらに阿多カルデラの開聞岳、鬼界カルデラの薩摩硫黄島までの南九州の火山フロントを一望でき、火山のなりたちを体感できる場所でもある。

記紀の世界で天孫降臨の舞台となった霧島には8世紀以降、たくさんの噴火記録が残されており、その活動の様子は日本神話や数々の物語に取り上げられ、信仰の対象にもされてきた。一方、噴火によって霧島神宮が数回にわたり火災に遭い遷宮されるなど、当時の人々の生活とも密接に関わっていたことから噴火災害の記録も多く残されており、今、それらの記録は噴火災害時のハザードマップの作成などに役立てられている。
氷期・間氷期などの地球規模の環境サイクルの変動と霧島の火山活動は、多様な植生を育み、とても豊かな環境をここに作りあげた。霧島火山固有種のノカイドウや暖温帯から冷温帯への植生垂直分布など、四季を通じて多くの貴重な動植物をここでは観察が可能である。このような火山を中心とした自然環境が評価され、1934年には日本最初の国立公園のひとつに指定された。

また、霧島山は豊富な降水量を受け止め、周辺に豊かな水と温泉を湧出させており、水は周辺の農業灌漑に活用され、温泉は古くから温泉旅館や湯治場が栄えてきた。地熱の持つエネルギーによる地熱発電所も稼動しており、たくさんの火山の恵みを私たちに与えている。

霧島山は、差高500m、2時間程度で山頂に到達できる韓国岳や、ハイキング感覚で周回できるえびの高原三湖めぐりなど、アプローチしやすいフィールドと火山の多様性をもちあわせたジオツーリズムに適した地域であり、老若男女が楽しめるさまざまな観察コースを四季を通じて設定することが可能である。

霧島をとりまく宮崎県都城市、高原町、小林市、えびの市、鹿児島県湧水町、霧島市、曽於市の５市２町の自治体では霧島をふるさとの山ととらえている。この環霧島地域のもつ火山や地質と自然を地域住民と行政、各種団体で連携して保護・研究し、教育的活用やジオツーリズムの場

として活用できるよう環境整備を行い、地域社会の活性化に寄与することを目的として、宮崎・鹿児島両県、商工会議所や商工会、観光協会、地質研究会などの民間団体とともに霧島ジオパーク推進連絡協議会を設立し、霧島のジオパークとしてのシステムづくりをはじめることとなった。

霧島ジオパーク推進連絡協議会では、ガイド養成の実施やジオマップの作成、火山防災教育との連携などの事業を実施し、ジオツーリズムに必要なサービスを提供できるシステムを構築し、霧島の持つ魅力を多くの人に体験してもらいたいと考えている。